

マタイ 4 章 1-11 節 「誘惑」

イエスさまが洗礼を受けた直後、悪魔から誘惑を受けた出来事が描かれています。極限状態の中、「誘惑する者」「試みる者」が近づいて来て言います。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」……悪魔からそう言われたとき、イエスさまは 40 日間、昼も夜も断食し、十分な水もないところで、死んでもおかしくない状況でした。しかし、イエスさまは、『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある」そう言って、悪魔からの誘惑を受けません。一見、「信仰的」に見えないかもしれませんが、「祈れば叶うと信じていない」姿に見えるかもしれません。ところがイエスさまは、欲しているものが与えられず、期待した助けがもたらされず、なかなか信仰を見出されない、そんな人たちを、神の子とされてきたのです。

悪魔の誘惑は続きます。イエスさまは、神殿の屋根に立たされて、「神の子なら、飛び降りたらどうだ」と言われます。実際、伝道のために、命の危険を顧みず、神様を信頼する様子こそ、信仰者にふさわしい、神の子とされた者にふさわしい姿と思われるかもしれませんが、しかし、イエスさまは『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言って、神が助けてくれるか試そうとする、危険な要求を退けます。一見、「信仰的に」見えないかもしれませんが。復活を、永遠の命を「信じていない」ように見えるかもしれません。ところが、全ての人のために十字架にかかり、3 日目に甦った方、ゲッセマネで苦しみ悶え、血が滴るように汗を流したイエスさまが、あなたを笑う者を退けます。

最後に、悪魔は三度目の誘惑をします。一瞬でイエス様を非常に高い山へ連れて行き、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言ってきます。荒野から都まで、神殿から山の頂上まで、瞬時に移動させる様子は、紛れもなく超常的な力です。しかし、イエスさまは、「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある」と言って、神からの権限を装って、人の信仰を試す態度を退けます。一見、「信仰的に」見えないかもしれません。「大人しく、わきまえて、神に従ってはいない」ように見えるかもしれません。ところが、祭司長や律法学者を非難して、最後まで闘い抜いた方、正真正銘、神の子であるイエスさまが、罵られ、否定される者に示されます。「あなたこそ、神の子とされている私の兄弟、私の姉妹」「私の道を歩む者」と。不利な証言をされても黙り続け、自分を否定しなかった方が、あなたを否定する者を退けます。

イエスさまが悪魔から誘惑を受け、試された出来事は、あなた自身が笑われ、侮辱され、罵られるとき、「お前は神の子とされていない」と否定されるとき……「いいや、あなたは私と共にいる」「私の兄弟姉妹である」と、イエスさまから呼びかけられ、自分が神の子とされていると、思い出させてくれる出来事です。キリストの受けられた苦しみと十字架の死を思い起こす、受難節第 1 週目。共に今、あなたを神の子としてくださるイエスさまの歩みを思い起こし、待ち望んでいた復活の救いと恵みを、受け取る準備をしていきましょう。